

〈新刊紹介〉2冊の『消防隊員死闘の記』——暗闇のなか、「再生」への2列の誘導灯

●津波と瓦礫のなかで——東日本大震災 消防隊員死闘の記——

南三陸消防署・亶理消防署・神戸市消防局+川井龍介 編

●炎と瓦礫のなかで——阪神淡路大震災 消防隊員死闘の記——

神戸市消防局「雪」編集部+川井龍介 編

(上記2冊、いずれも)

出版社:旬報社/定価:各 1365円/発行日:各 2012年2月27日



「東日本大震災 消防隊員死闘の記」は、東日本大震災で派遣動員された緊急消防援助隊のうち兵庫県隊と被災地地元の消防士から募った手記で構成されている

■無力感と希望と——こだまして響きあう2冊の手記

ここに「消防隊員死闘の記」の書名を分かち合う2冊の本がある。ひとつは海を連想させるブルーのカバー、その底に沈むように「津波と瓦礫のなかで」のタイトル印字。もうひとつは、燃え上がるような赤のカバーに、炎に照らし出される影のように「炎と瓦礫のなかで」とある。

姉妹本として出版されたこの2冊は、「東日本大震災 消防隊員死闘の記」と「阪神淡路大震災 消防隊員死闘の記」だ。本の帯に共通するアイキャッチ・コピーには「もっと多くのいのちを救いたかった」とある。

本の装丁がこれほどみごとに共鳴効果を発揮し、響きあう例は少ないように思う。そしてアイキャッチ・コピー「もっと多くのいのちを救いたかった」も、二重、三重の複雑なこだまのような広がりを持って2冊のあいだで共鳴する。「もっと多くのいのちを救えたはずなのに……」という無力感、「もっと多くのいのちを救える……」という希望。そして、宿命と使命、孤独と連帯といった相克が、この2冊のあいだで響きあうようだ。

「東日本大震災 消防隊員死闘の記」は、東日本大震災を受けて初めて派遣動員された緊急消防援助隊の活動について著されたものだ。緊急消防援助隊とは、阪神・淡路大震災を教訓に創設された全国消防機関で組織する被災地応援部隊で、東日本大震災では約7500隊・2万8400人にのぼる全国の消防職員が被災地に派遣されたという。

「死闘の記」は、阪神・淡路大震災時の「恩返し」の思いを胸に刻んで応援活動に携わった神戸市を中心とする兵庫県隊の消防士と、彼らが向かった宮城県亶理郡山元町、本吉郡南三陸町の地元消防士から募った手記で構成されている(神戸市消防局・広報誌「雪」に初出=後述)。被災地では消防も被災し、消防職員の殉職者が27人、消防団員では254人も死者・行方不明者が出たほか、家族を失くしたり、家を流されたものも少なくない。

■“災害感性”の更新のために「死闘の記」を次世代へ伝えよう

巨大災害とはなにか——手記では、大災害の最前線の現場にあった彼ら消防士の五感によってその状況と実相が伝えられる。私たちは被災地を訪れて災害のすさまじさを実感するが、それはあくまで“被災後の被災地”を見ているにすぎない。しかし、この手記が伝えるのは、“危機の渦中の日常”(みるみる壊されていく日常)であり、破壊と被害の進行形の実相なのだ。日常が崩れゆくさまを目の前にした消防士たちの無力感は想像するにあまりあり、消防士たちも「もっと多くのいのちを救いたかった」と慟哭する。

そのいっぽうで、私たちはこれらの手記のなかに、「もっと多くのいのちを救える……」という希望も見出す。「下を向いてはられない、おれは消防士だ」、「われわれを待っている人がいる限り(諦めるわけにはいかない)」といった言葉が、無力感の底で光り輝く。

消防関係者や公的な仕事に就く人たちは「死闘の記」から公の仕事、殉職について深く考えることだろう。また、公の立場として次の大災害への教訓を引き出すことだろう。それとは別に「死闘の記」は、私たち市民、あるいは一個の人間に、災害という不条理の闇に風穴を開ける人間の力を示唆し、励ましてくれる。その風穴から差し込むものは希望という一筋の光であり、再生を導く誘導灯にも見える。

姉妹本である「阪神淡路大震災 消防隊員死闘の記」は、17年前の阪神・淡路大震災発災の年1995年8月に、神戸市消防局・広報誌「雪」に掲載された消防隊員の手記をもとに初版が発行され、その後絶版となっていたもの。今回の出版は、「東日本大震災 消防隊員死闘の記」に呼応しての復刊となる。

この種の本は時を超えて私たちの“災害感性”を更新してくれる。絶版はその風化、希望の光のフェイドアウトにつながりかねない。多くの読者が永く2つの大震災「死闘の記」を手にしてくれることを、その光が次世代に引き継がれることを強く望みたい。

>>>[旬報社刊「東日本大震災 消防隊員死闘の記」](#)

>>>[旬報社刊「阪神淡路大震災 消防隊員死闘の記」](#)



「阪神淡路大震災 消防隊員死闘の記」は、阪神・淡路大震災時に救援活動を行った神戸市の消防士から募った手記で構成。17年前に発行され、その後絶版となっていたが、東日本大震災を受けて復刊した